

セッション4 ワークショップの取りまとめ

グループディスカッションの結果をそれぞれの討論グループの3人の世話役が発表し、最後に森林総合研究所、マレーシア森林研究所の研究総括者が、すべての発表とグループディスカッションのまとめを述べた。今後も貴重なデータの解析を続けREDDプロジェクトの延長を目指すことで、マレーシアと日本、双方が合意し閉会となった。

おわりに

マレーシアでは森林減少がほぼ止まっていることもあって、当初、マレーシア連邦森林局が乗り気ではなく、REDDプラスプロジェクトの立ち上げは苦勞した。しかし、3年の間にマレーシア側のREDDプラスの取り組みも本格化し、何とか最終年度のワークショップに漕ぎつけることができ安堵している。

しかも短期間の準備にもかかわらず、マレーシア森林研究所の努力で盛大なワークショップが首都クアラルンプールの中心市街地で開催できたことを多くの関係者に感謝したい。2015年度まで2年間延長したマレーシアでのREDDプラスプロジェクトの中で、リモートセンシングや地上調査の貴重なデータを十分に解析し、社会、経済学的な背景と合わせて、森林減少がマレーシアでどのように低減してきたのか明らかにしていきたい。

最後に、マレーシアでのREDDプラスワークショップが成功裏に開催されたことを、森林総合研究所 REDDセンター長松本光朗氏をはじめ、温暖化拠点の荒木誠氏、平田泰雅氏、マレーシア REDDプラスプロジェクト担当の佐藤 保、鷹尾元、宮本基杖、道中哲也の各氏に感謝したい。

図書紹介

アジアの熱帯生態学

リチャード T. コーレット著 (2009)

長田典之・松林尚志・沼田真也・安田雅俊 共訳
2013

B5版 並製本 304ページ

東海大学出版会

ISBN978-4-486-01891-9

2013年7月20日発売

この本の原書 R. T. Corlett 著 “The Ecology of Tropical East Asia”, (2009) は、熱帯東アジア（日本の南西諸島、小笠原諸島から東南アジアのミャンマーまでの範囲）の地史や環境、動植物の生態、物質循環、保全といった幅広い分野を通観する、熱帯生態学の教科書です。訳者達がそれぞれの熱帯生態

学に関する知識を駆使して、内容を日本語として理解できるように翻訳し、校正を重ねたことにより、日本語としてわかりやすい文章の教科書となっています。

本書の前半（1章から6章）により、東アジアの熱帯生態学について体系だって学ぶことができます。そして本書の後半からは、森林破壊に代表される生物多様性への脅威について（第7章）、また熱帯生態系を保全するために必要な考えについて（第8章）、学ぶことができます。理系の研究（生態学）は難しそうと感じる方でも、第7章、第8章から読み、そこで言及されている前半部分を読むことで、熱帯林の保全や持続的利用に必要な生態学的基礎を固めることができます。熱帯生態を研究している方だけでなく、熱帯林の利用や修復、生態系保全に係わる人にも、お勧めの一冊です。

（藤間 剛）